

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
生活支援技術Ⅱ Independent Living Skills Ⅱ		1年	前期 1 / 2	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(介護福祉士養成課程 必修)	介護福祉士養成課程の学生のみ履修可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
新井文子／久保由佳	福祉棟2階	初回授業にて説明する。		授業中に指示します
授業の概要				
日常生活の基本行動となる移動の意義や目的、利用者のアセスメントについて学習し、移動が障害されることによる影響を理解する。そして、利用者の状況に応じた、安全で的確な移乗・移動技術を習得する。また、適切な福祉用具の活用により、生活領域の拡大および自立に向けた介護について考えていく。				
授業の目標				
①日常生活における移動の意義を理解し、障害されていることの不自由さを説明できるようにする。 ②基本的な移乗・移動技術を習得できるようにする。 ③移動に関するアセスメントを説明できるようにする。 ④自立支援に向けた福祉用具を適切に選択し活用できるようにする。				
授業の方法				
演習科目であるが講義も併用する。演習では、具体的かつ実践的な技術を習得するため、介護者役だけでなく利用者役もおこなう。				
学習の成果（学習成果）				
①日常生活における移動の重要性を説明することができる。 ②移動に関する基本的な技術を習得し、福祉用具の適切な活用により、日常生活の拡大を図ることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(シラバスにそって)、日常生活における移乗・移動の意義と目的 (第1～第15回 新井)			
第2回目	安全で的確な移動・移乗介助の技法① 基本体位、良肢位 【演習】			
第3回目	安全で的確な移動・移乗介助の技法② 安楽な体位【演習】 (レポート1 提出：1週間後)			
第4回目	安全で的確な移動・移乗介助の技法③ 上方移動と水平移動、体位変換、端座位 その1 【演習】 (久保)			
第5回目	安全で的確な移動・移乗介助の技法④ 上方移動と水平移動、体位変換、端座位 その2 【演習】			
第6回目	安全で的確な移動・移乗介助の技法⑤ 端座位、移乗 一部・全介助 (車椅子、ストレッチャー) その1 【演習】 (久保)			

第7回目	安全で的確な移動・移乗介助の技法⑥ 端座位、移乗（車椅子、ストレッチャー）その2 【演習】
第8回目	安全で的確な移動・移乗介助の技法⑦ 歩行補助具による介助の実際(杖、歩行器等) 【演習】
第9回目	安全で的確な移動・移乗介助の技法⑧ 片麻痺体験 【演習】
第10回目	安全で的確な移動・移乗介助の技法⑨ 車椅子 【演習】 (レポート2 提出：1週間後)
第11回目	移乗・移動の技術に関するまとめ 【演習】
第12回目	移乗・移動に関する生活支援技術習得の確認・振り返り 【演習】 小テスト①(実技試験)
第13回目	褥瘡とその予防 同一体位による弊害、褥瘡の原因と予防
第14回目	移乗・移動に関するアセスメント、小テスト②(筆記試験)
第15回目	まとめ 多職種との連携、福祉用具の活用、生活領域を拡大するための工夫

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	マニュアルを活用し自主的にメモしている。演習時は身支度を整え、積極的・自主的に参加している。指導を受け入れ技術を習得しようと努力する姿勢がみられる。
レポート	20%	1：安楽な体位 S：資料をもとに具体的にまとめている。 2：演習の振り返り S：演習内容を踏まえ、利用者役・介護者役両面からの学びを記述している。(各10%)
調査報告書		
小テスト	60%	2回実施 ①技術の確認 20% ②知識の確認 40% (テキスト・生活支援技術マニュアル・自筆ノートの持ち込みを許可する)
試験		
発表内容(態度含む)		
その他		

教科書と参考図書

①教科書 新・介護福祉士養成講座 7 第3版 「生活支援技術Ⅱ」 中央法規出版
②生活支援技術マニュアル

履修上の留意点・ルール

講義・演習とも積極的に取り組み、演習時は身だしなみを整えること。また、自己練習をし、技術の向上に努めること。小テスト①については他科目との兼ね合いから、変更することがある。クォーター科目の後半であり、「こころとからだのしくみⅠ」終了後から始まる。